

国際結婚の両親から学んだこと

長久手市立北中学校

二年 カン イサク

僕は春休みにインターナショナルスクールの国際キャンプに参加しました。中学生、高校生、大学生達が集まるキャンプです。そこで思ったことがあります。人によって国によって、考え方に違いがあるということです。例えば、日本人は時間を守ることをとても大事だと教えられていて、それをしっかり守ります。でも、外国の人は時間をあまり守らないことに気づきました。

僕の両親は国際結婚で、母は日本人、父はアメリカ人です。そこで、時間を守ることについて、母に聞いてみました。すると、以前約束の時間に遅れてくる父に、自分は大事に思われていないと感じて悲しかったことがある、と言っていました。でも、話し合ったら和解できたそうです。国によっては、時間を守ることよりも人間関係の方が大事だと思っているらしいです。十五分ぐらい遅れるのは

普通という国もあれば、一時間くらい遅れても大丈夫な国もあるそうです。相手の国の常識を知ることが大事だなと思いました。

母に聞くと、アメリカ人と日本人の文化の違いは他にもあります。アメリカでは、基本的に親子関係より夫婦関係を大事にします。子供に、幼いうちから自立や責任を学ばせるために、産まれてすぐから一人で寝させます。

そして、子育てでは、子供が社会に出たときに困らないように、自分で考える力や個性を大切にします。よく子供に「あなたは どう思う。」と聞き、たくさん話し合います。それに対して、日本では、個人の考えより周りとうまく過ごすことを大切にします。誰かに迷惑をかけないようにするためルールをたくさん教えます。「恥の文化」という言葉もあり、よく他の人と比べることが多いと言っていました。

母は違う例も話してくれました。昔、母が友人に物を渡す時に軽く投げて渡したら、後日悲しかったと言われたそうです。その態度に傷ついたと。日本での話です。同じ日本人

でも、人によって育った環境が違うので、価値基準も違うことがあることを知り、文化の違いも価値観の違いも、わかり合おうとする話し合いが大切だと教えてくれました。

もう一つ大事なことはバウンダリーを考えて生きることだと言っていました。母はアメリカ人の父があまり謝罪しないことでよく喧嘩になったそうです。先ほどの例でも、友人が悲しかったのはその友人の責任であり、母のせいではないから謝る必要はない、というのが父の考えです。母は、悲しませるきっかけを作ってしまったので謝ったそうですが、アメリカでは謝らない人の方が多いらしいです。悲しいときは、自分がなぜ悲しいのか考へることが大事で、悲しいことを人のせいにしてたり、人の態度で解決を得ようとしたりはしないということ。両親もいろいろ大変だったんだなと思いました。

アメリカでは、人と人は違いがあり、喧嘩するのが普通だから、結婚前に結婚カウンセリングを受ける人が多いと聞きました。人によって国によって育った環境によって、いろ

いろいろな考え方があつたことを知るために、相談するのはいいと思いました。考えの違いがあると喧嘩にもなりやすいと思いますが、相手の気持ちを否定せずに聞いたり、いろいろな考え方を学び合ったり、話し合うことで仲良くなれることを両親を見てわかりました。

僕も将来アメリカに行き、住むことになると思います。自分と違う価値基準をもつ人にもたくさん出会うと思います。そのためにもこれから自分と違う考えの人の話もじっくり聞き、たくさん話し合つて、相手の考えに合わせるのではなく、相手の考え方を理解できる人になりたいです。